

小学校 図画工作科

# かんきょう手帖

<https://center.gsn.ed.jp/kensyuin/r03kenkyu>

参考：日本文教出版「図画工作」

群馬県総合教育センター

## ●目標

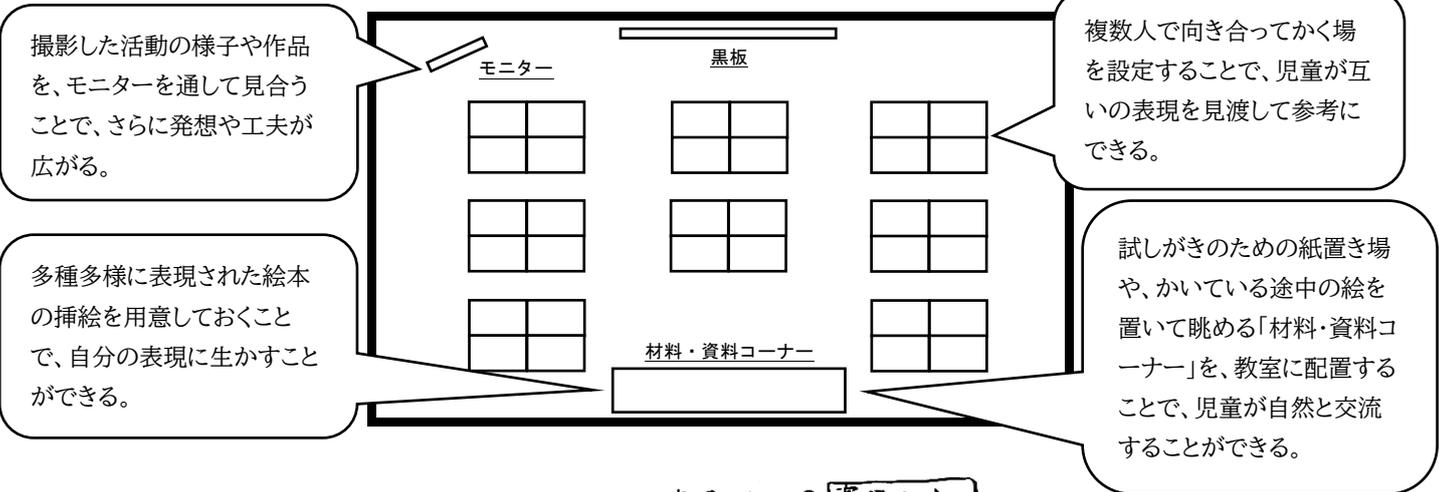
かきたいことから想像を広げ、形や色を工夫して絵に表す。

## ●学習の流れ

であう	物語を聞いたり読んだりして、そこから感じたことや思ったことを考える。
	思い浮かんだことを話し合う。
ひろがる あらわす	かきたいことを想像を広げて楽しく表す。
	思いに合うよう工夫して表す。
ふりかえる	自分や友達のかいた絵を見て、その様子や表し方について話し合う。

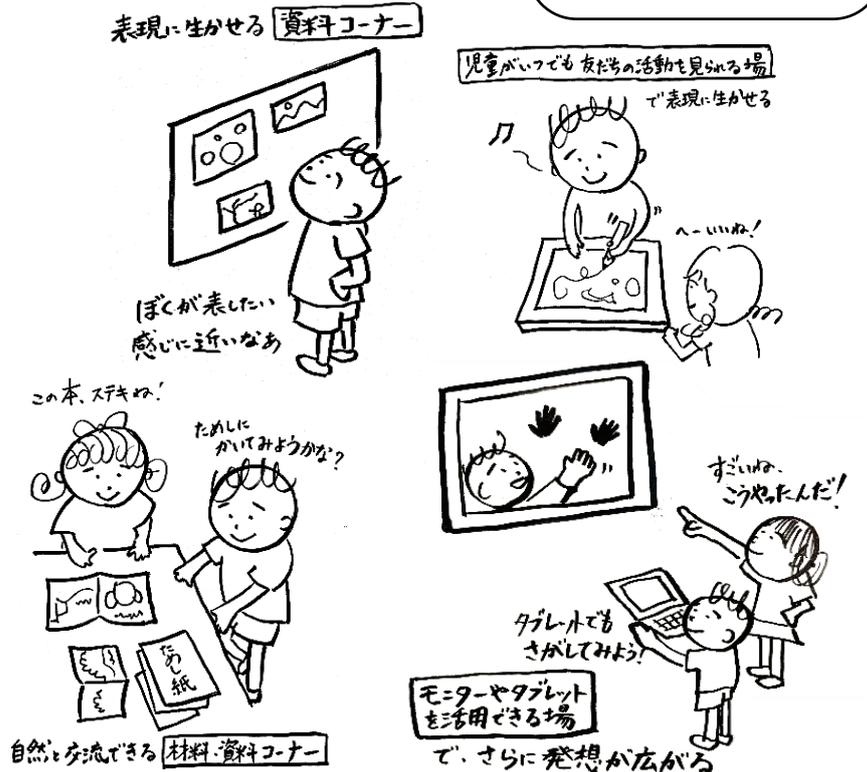


## ●「環境づくり」



## ●目指す児童の姿

- 自分の頭に思い浮かんだことを色や形に表したり、思いに合った紙の色や形に気付いたりしている。(知)
- クレヨン・パス、絵の具などに十分に慣れると共に、手や体全体の感触などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。(技)
- 思い浮かべたことから、さらに想像を広げて、自分の表したいことを思い付いている。(発)
- 友達がどのような物語を選んだかを話しながら、面白さを感じ取ったり、そこから新たに発想したりしている。(鑑)
- 真剣に画用紙をじっくり見ながら色を塗っている。(態)



## ●目標

つくりたいものに合わせて、形や色、材料を選んで、工夫して表す。

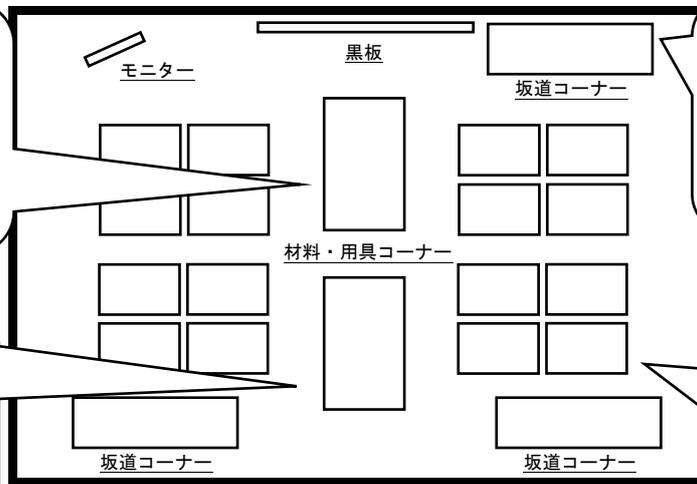
## ●学習の流れ

であう	転がる様子から想像を膨らませながら、仕組みをつくる。
ひろがる	つくりたいものに合わせて、形や色、材料を選んで、工夫して表す。
あらかわす	表す。
ふりかえる	みんなで転がして楽しみ、作品の面白さや楽しさを味わう。



## ●「環境づくり」

紙テープは、長い棒に通したり箱に入れたりして、必要な分だけ取りやすいようにする。また、色画用紙をサイズ別に分けて用意し、選んで使えるようにする。



簡易の坂道を用意しておく。組み合わせ合わないよう、連続して転がす回数を制限するルールを設けたり、教室の前と後ろなどに複数箇所設置したりする。

自然に他の班の様子に気付くことができるよう、中央に材料や用具を置いた場をつくり、囲むように班を配置する。

活動中も対話が生まれ、発想を広げられるよう、席を班の形にして活動する。

## ●目指す児童の姿

- ・回るとひらひらする紙の形、紙を折ってできる形、コップをつなげてできた長い形、紙皿のみぞを生かして塗った色など、いろいろな形や色に気付いている。(知)
- ・接着剤の扱いに慣れ、芯が付くまでしっかり押さえたり、飾りがよく回るように付け方を工夫して表したりしている。(技)
- ・動きを試しながら、表したいものをどう表すか考えたり、表したいものにに合わせて透明なカップを使うことを考えたりしている。(発)
- ・友達と一緒に転がして楽しみながら、作品の面白さや楽しさを見付けている。(鑑)
- ・転がり方を試しながら、表し方や飾りについて考え、楽しく活動に取り組もうとしている。(態)



## ●目標

表したいものに合わせて箱の使い方を工夫し、試行錯誤して表す。

## ●学習の流れ

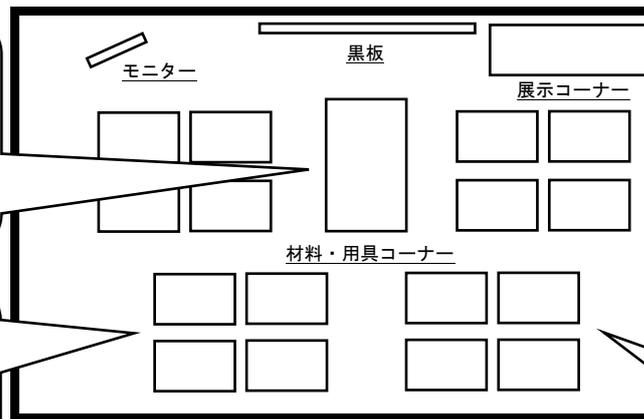
であう	箱を並べたり、つないだり、積んだりする活動を楽しみながら、自分のつくりたいものを考える。
ひろがる あらわす	粘着テープ、木工用接着剤、両面テープなどの用具の基本的な使い方を確認する。 自分のつくりたいものに合わせて、箱の積み方やつなぎ方を工夫しながら接着の方法や立たせ方を試行錯誤してつくる。
ふりかえる	作品を展示して遊びながら、作品を見たり、手に取ったりして、作品の形や色、工夫などの面白さを味わう。



## ●「環境づくり」

児童一人一人が箱を多めに用意するとともに、教師も箱を集めておき、形を比べたり、選んだりすることができるようにする。

自然に他の班の様子に気付くことができるよう、中央に材料や用具を置いた場をつくり、囲むように班を配置する。



作品ができたなら、展示したり遊んだりすることを促す。児童は展示することで作品が立つかどうかという課題に改めて気付くことができる。また、遊ぶことで友達の工夫に気付いたり、発想を膨らませたりして新たな表現につなげることができる。

活動中も対話が生まれ、発想を広げられるよう、席を班の形にして活動する。

## ●目指す児童の姿

- ・箱の積み方や付け方を試しながら、箱のいろいろな形や、箱を付けてできた斜めの形などを捉えている。(知)
- ・作品を長く伸ばすために、箱のつなぎ方を工夫している。また、箱が開くように粘着テープの貼り方を工夫している。(技)
- ・丸い形からイメージをもち、つくりたいものを思い付いたり、箱の傾きを考えたり、箱を付ける位置や付け方を試し、表し方を考えたりしている。(発)
- ・友達と作品を見たり、作品で遊んだりしながら、作品の楽しさを感じ取っている。(鑑)
- ・積極的に箱の使い方を試しながら、楽しく学習に取り組もうとしている。(態)



活動中も対話が生まれ、発想が広がる

机の配置



箱の形を比べたり選んだりすることができる

材料コーナー



こっちからみてもなかなか!

まるいふたがいいね

飾ったり、あそんだりして工夫が広がる

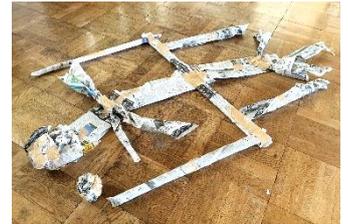
展示コーナー

●目標

新聞紙の感触を体全体で味わいながら、思い付いた形をつくることを、楽しむ。

●学習の流れ

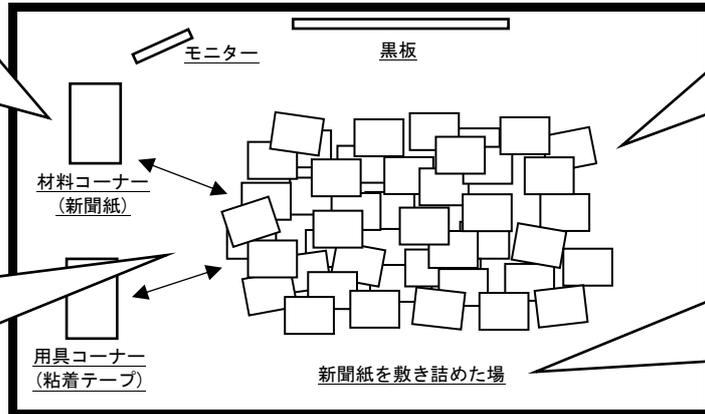
であう	<p>たくさんの新聞紙に出会う。</p> <p>新聞紙を並べたり、まとったり、丸めたり、破いたりしながら、紙の大きさや感触などを全身で味わう。</p>
ひろがる あらわす	<p>新聞紙の感触を味わいながら、思い付いたものをつくる。</p> <p>さらに思い付いたことを試し、友達と協力していろいろな形を見付け、共に作りだすことを楽しむ。</p>
ふりかえる	<p>みんなでつくった形や変化した様子を見合い、面白さについて伝え合う。</p>



●「環境づくり」

大量の新聞紙を用意することで、思い付いたことをたくさん試しながら、つくることができる。

児童が材料・用具コーナーに行く度に、友達の多様な表現を自然と鑑賞することができる。



材料を新聞紙と限定することで、材料選択に時間をかけずに、表現に十分な時間をかけることができる。

新聞紙を敷き詰めたを設定することで、その上に立ったり、座ったり、寝転んだりしながら、体全体で新聞紙と関わり、活動を考えることができる。

●目指す児童の姿

- ・新聞紙を破いたり、つなげたり、できた形を見せ合ったりしながら、いろいろな形に気付いている。くしゃくしゃにした新聞紙に包まれた感じを捉えている。(知)
- ・テープで新聞紙をつないで大きな面にしたり、丸めて細い棒状にしたり、円状につなげたりするなど、手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくっている。(技)
- ・教室の隅を利用して新聞紙に貼り付けて家に見立てたり、新聞紙をかぶりながら服にしていくことを思い付いたりするなど、どのように活動するかについて考えている。(発)
- ・破いたり絞ったりしてできた形を友達と見せ合ったり、新聞紙をものに見立ててその中に入ったりしながら、面白さや楽しさを感じ取っている。(鑑)
- ・新聞紙に触れ、感じを味わい、いろいろ試しながら活動を楽しもうとしている。(態)



同じ思いをもってあつまる用具コーナーで、自然と対話が生まれる



しんぶん紙をしきめた場で、体全体でかかわり、つくれる



●目標

思い付いた場面を想像しながら、工夫して表す。

●学習の流れ

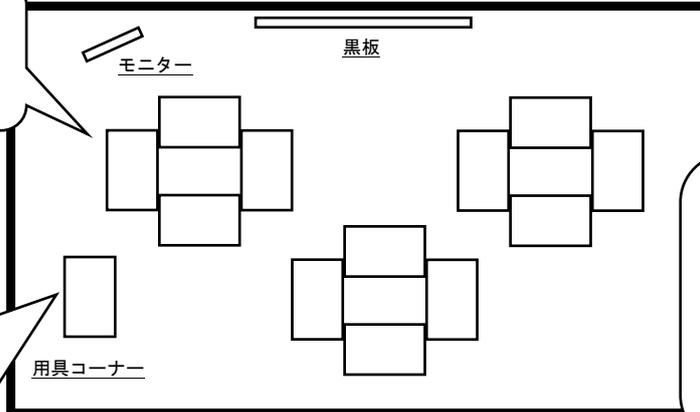
であう	楽しかったこと面白かったことを思い出して話し合い、表したい場面を考える。 教科書の参考作品を見て、つくり方の工夫について考える。
ひろがる あらわす	ひねり出しの方法を知る。 思い付いた場面を、つくり方を工夫しながら粘土で表す。
ふりかえる	自分の作品に題名を付け、友達に紹介したり、友達の作品を見たりする。



●「環境づくり」

互いの活動の様子を見たり、作品をいろいろな角度から見たりできるよう、席を班の形にして活動する。

友達の表現を自然と鑑賞することができるよう、用具コーナー(竹ぐし、霧吹き)を設定する。前半は、手や体全体の感覚を働かせることができるよう、手触りに慣れてきた後半に設定する。



児童が「ひねり出し」の方法に気づき、共有できるよう、丸める、伸ばす、押す、ねじるなどの造形行為を試す場を設定する。

様々な発想を広げられるよう、夏休みや休日の家庭での楽しかったことや面白かったこと、普段の学校での出来事や、家族とのやりとりなど、話し合う場を十分に設ける。

●目指す児童の姿

- ・粘土を人の形に変えたり、竹ぐしで表情をつくったりしながら、いろいろな形に気付いている。(知)
- ・思いに合わせて腕や足をひねり出し、つくり方を工夫したり、楽しそうにしている様子などを姿勢や表情、置き方を工夫したりして表している。(技)
- ・表したい場面を思い付き、その場面に見えるように持ち物などをつくって表すことを考えている。また、例として仲良く話している感じを表す時には、友達の顔を見合わせるように姿勢を考えるなど工夫して表している。(発)
- ・友達と作品を紹介し合い、互いの面白さや工夫を感じ取っている。(鑑)
- ・積極的に手や用具を使い、友達と見合いながら楽しく活動に取り組もうとしている。(態)

ための場 で、方法発見!!



対話的な学びを促す

班活動



必要な時に集まり、自然と、対話が生れる

材料・用具コーナー

●目標

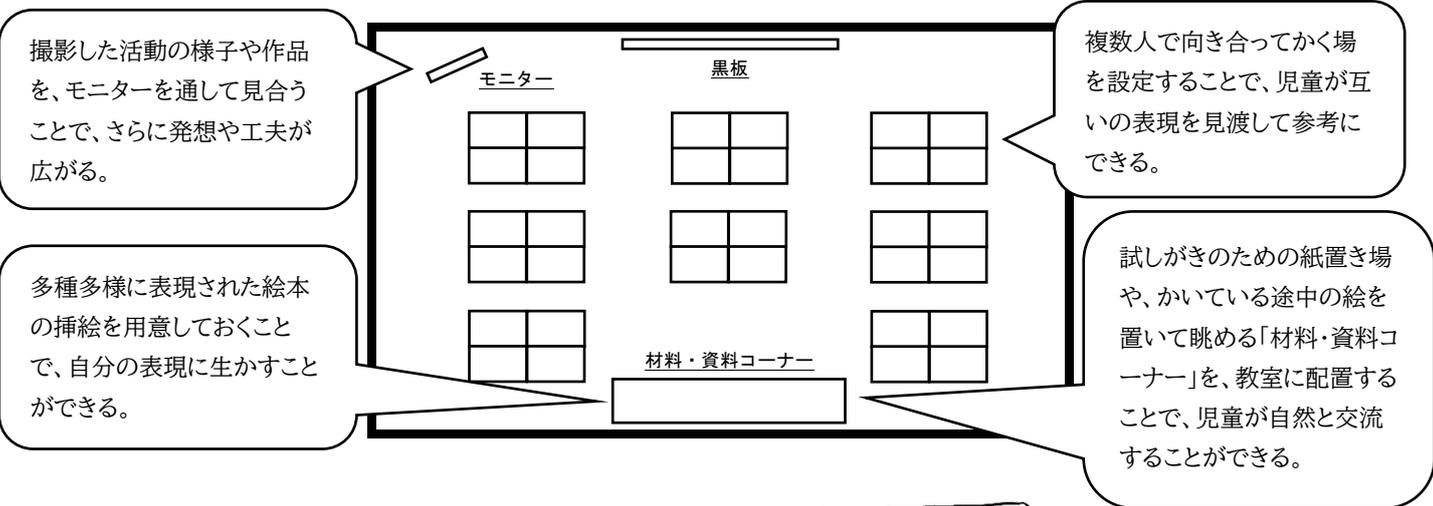
想像を広げながら表したいことに合う表し方を考え、工夫して表す。

●学習の流れ

であう	聞いたり読んだりした物語から、好きな場面を思い浮かべ、感じたことや思ったことを話し合う。
	教科書の作品を見て、表現の工夫やどのような場面かななどを友人と伝え合う。
ひろがる	表したいことから想像を広げて、楽しく絵に表す。
あrawす	思いに合わせて工夫して絵に表す。
ふりかえる	自分や友人の作品を見合い、すてきなところや思ったことを話し合う。

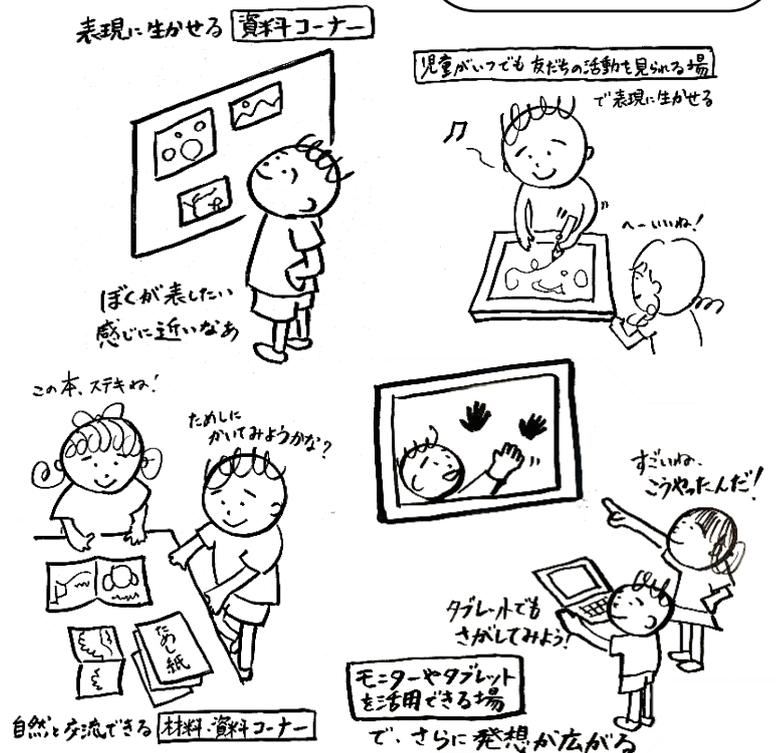


●「環境づくり」



●目指す児童の姿

- 登場人物の部屋の様子、周りにあるものや天気などを、どのような形や色で表すか考えたり、基底材の色を選んだりしながら、いろいろな形や色に気付いている。(知)
- 筆遣いや用具を工夫して表したり、表情や体の動きを考えて表したりしているなど、自分の思いに合った表し方を工夫している。(技)
- 感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、それぞれの大きさや配置、色などの表し方を考えている。(発)
- 鑑賞の時間に、一人一人思い浮かべる様子が違うことに気づき、互いの作品の面白さや楽しさ、表し方の工夫について感じ取ったり考えたりしている。(鑑)
- 想像したことをどんどんかいている。楽しんで友達と作品を見合い、表す場面や表し方の違いなどを話しながら活動に取り組もうとしている。(態)

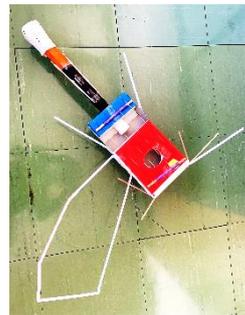


●目標

いろいろな音の出し方を試し、音のイメージに合う飾りを付けて、すてきな音の鳴るものをつくる。

●学習の流れ

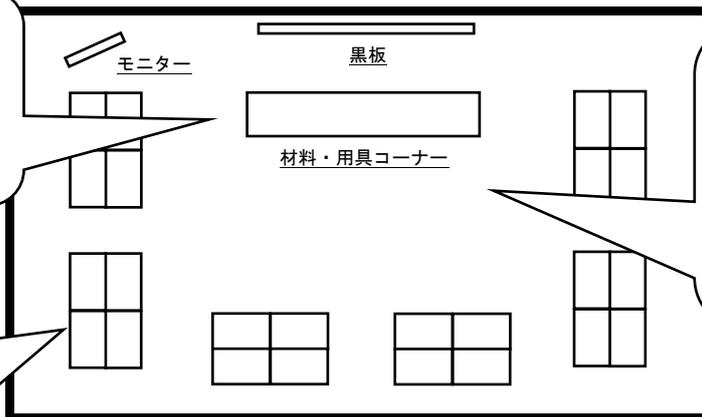
であう	材料を使うと様々な音が出せることに興味をもち、活動の見直しをもつ。
ひろがる あらわす	いろいろな材料を使って、どんな音が鳴るか試し、音の鳴る仕組みをつくる。 つくりたいもののイメージに合わせて、音の鳴る仕組みや飾りをつくる。
ふりかえる	友達と一緒に演奏したり聞き合ったりして、自分のつくったもののよさや友達の表現の工夫や楽しさを感じる。 友達のつくったもののよさや面白さ、工夫など、気付いたことを伝え合う。



●「環境づくり」

ビニルテープや木工用接着剤などは、用具コーナーに用意しておくことで、必要な児童同士の対話を促すことができる。

材料や用具を共有したり、話し合ったり音を聞き合ったりできるように、4人の班で活動できるような机の配置にする。



材料を選んだり、発想を広げたりできるように、空き箱や空き容器、身近材などの材料を種類別に分け、児童の動線を考慮して材料コーナーを設置する。

●目指す児童の姿

- ・雨のイメージに合わせて青色や水玉模様の材料を使ったり、花火の音に合わせて毛糸で飾りを付けたり、音に合わせて飾りながらいろいろな形や色に気付いたりしている。(知)
- ・卵パックの中にビーズを入れたり、接着と飾りを兼ねたテープの使い方をしたりして、材料の使い方や効果的な飾り方を工夫している。(技)
- ・音を鳴らしながら、材料の音や形から自分のイメージをもち、表したいことを思い付いたり、雨のイメージから傘や水溜まりをつくることを考えたり、「振る・たたく」の二つの音の鳴る仕組みを組み合わせることを思い付いたりしている。(発)
- ・楽しく音を出しながら、自分や友達の作品の面白さや工夫を感じ取っている。(鑑)
- ・いろいろな音の出し方を試しながら、自分のイメージに合った飾りを考え、楽しく活動に取り組んでいる。(態)



自然な対話が生まれ、思いが広がる  
机の配置



自然な対話が生まれる  
用具コーナー



材料を比べたり、選んだりできる  
材料コーナー

●目標

想像を広げながら表したいことに合う表し方を考え、工夫して表す。

●学習の流れ

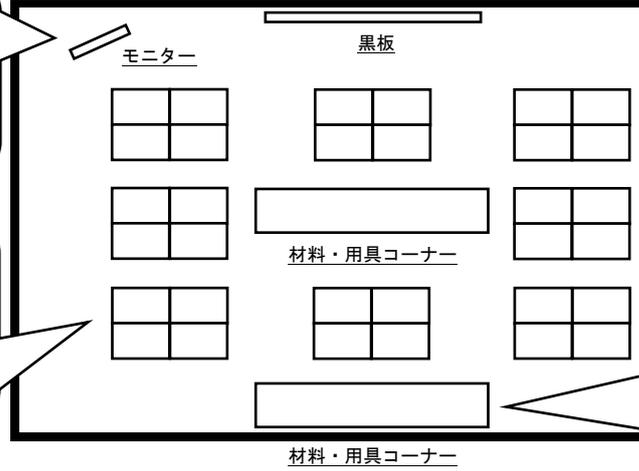
である	詩や物語から思い浮かべたことや雰囲気を話し合う。
	思い浮かべたことや雰囲気に合う形や色を考える。
ひろがる	詩や物語から想像したことを基に見付けた表したいことに合う表し方を考え、絵に表す。
あらかわす	友達と互いの絵を見ながら、想像したことが感じられるところを見付け伝え合う。
ふりかえる	表したことや表し方の工夫を味わいながら鑑賞する。



●「環境づくり」

撮影した活動の様子や作品を、モニターを通して見合うことで、さらに発想や工夫が広がる。

複数人で向き合っかく場を設定することで、児童が互いの表現を見渡して参考にできる。



校庭の大きな木のところへ行き、様々な場所から見上げ、豆太の気持ちを追体験できる場を設定する。

児童の視線や動きが自然然と交流できるよう、試しがきのための紙置き場や、かいている途中の絵を置いて眺める場を、教室の中央や壁際に配置する。

●目指す児童の姿

- ・木や人物を動きのある形と色で表現したり、光と闇、雪によるドラマチックな場面を色の明るさで表現したりしている。(知)
- ・絵の具をにじませて模様にしたり、風景ににじみやぼかしを使ったり、グラデーションを生かしたりと用具や材料の使い方や形や色など表し方を工夫している。(技)
- ・大きさや設定、配置など表したいことを見付け、想像した思いに合う形や色、表し方を考えている。(発)
- ・絵の具の様子を見たり、想像を広げたりしながら、それぞれの表し方について自分の見方や感じ方を広げている。(鑑)
- ・絵の具の使い方を工夫したり、思い付いたことをかき足したりしていくことに進んで取り組もうとしている。(態)

表現を生かせる「資料コーナー」



児童がいつでも友達の活動を見られる場で表現を生かせる



自然に交流できる「材料・資料コーナー」



モニターやタブレットを活用できる場で、さらに発想が広がる

●目標

使って楽しくなる形や色、機能性、飾りを考え、工夫してつくる。

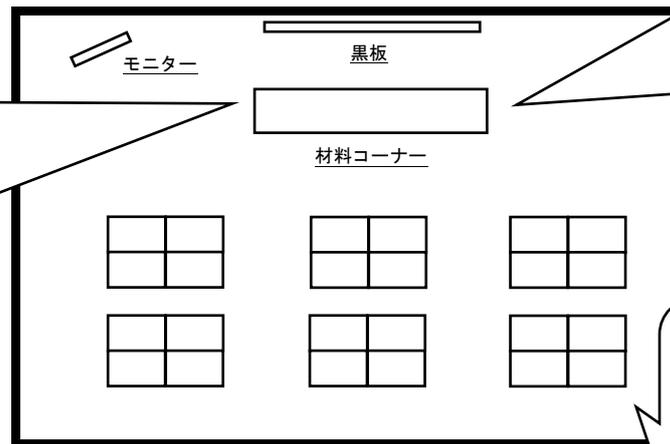
●学習の流れ



であう	小物入れに入りたいものを考えながら、家にあるとよいと思う小物入れを思い浮かべる。
ひろがる あらかわす	使いやすく、使って楽しくなる形や色、機能性、飾りを考える。 つくるものが決まったら空き容器を組み合わせて芯となる部分をつくる。
	色紙粘土で表面を丁寧に覆っていく。
ふりかえる	飾った作品を鑑賞し、友達や自分の作品のよさや面白さについて話し合い、感想や考えを発表する。

●「環境づくり」

つくりたい小物入れを考える際、空き容器の組合せを試し、組み合わせた形から発想することもできるが、ワークシートを用意しておくことで、使う場面や用途から発想することもできるようにする。



児童が各自用意した空き容器の他、学校でも空き容器を、ペットボトル、トレーなど種類別、大きさ別に分類して準備しておくことで、児童が表したいことに合うものを選べるようにする。

机を班の形にし、互いの活動が見えるようにすることで、形や色の感じ、組合せによる感じに着目した表現に気付けるようにする。

●目指す児童の姿

- ・空き容器を組み合わせて考えながら、形の組み合わせの感じが分かっている。思いに合わせてつくりながら色の組み合わせによる感じが分かっている。(知)
- ・空き容器を適切に扱い、水彩絵の具の経験を生かして色をつくり、表したいものにするために、容器の切り方や組合せ方を工夫して表している。(技)
- ・空き容器を組み合わせながら発想や構想をしたり、自分の思いに合わせて飾り方を考えたりしている。(発)
- ・製作途中の自分や友達の作品を見て、表したいことや表し方について考えている。(鑑)
- ・試したり考えたりしながら、進んで学習に取り組もうとしている。(態)



## ●目標

立たせた粘土の形から表したいことを思い付き、立たせ方や組み合わせ方を工夫して表す。

## ●学習の流れ

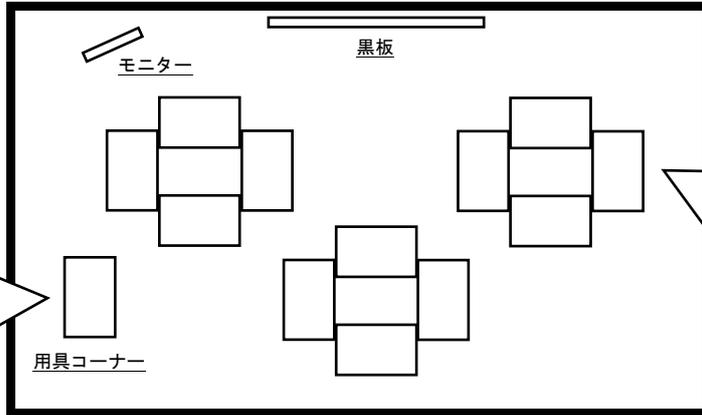
であう	粘土を扱った経験を振り返りながら、粘土の形の変え方をいろいろ試す。
ひろがる あらわす	粘土の立たせ方を試しながら、表したいことを考える。 表したいことに合わせて、組み合わせ方やつくり方を工夫して表す。
ふりかえる	作品に題名を付け、友人と鑑賞し合い、作品のよさや面白さ、表現の工夫を伝えあう。



## ●「環境づくり」

粘土を立ち上がらせるための方法を、色々と試しながら見付けられるように、油粘土を使った試しの場を初めに設定する。

切り糸やかきべらなどの用具コーナーを設定することで、友達と対話したり、友達の表現を自然と鑑賞したりすることができる。



児童の席を班の形にして活動する、または大きい机に複数人が向かい合って活動することで、互いの活動の様子を見たり、作品をいろいろな角度から見たりすることができる。

## ●目指す児童の姿

- ・薄く広げた粘土を巻いて立たせたり、粘土を細かく切って組み合わせたりと、形を変えることを試しながら、形の感じや組み合わせによる感じを捉えている。(知)
- ・用具の使い方や粘土の積み上げ方を工夫している。粘土を柱にして挟んだり、棒の粘土を順番に積んだりして、表し方を工夫している。(技)
- ・自分の思いに合った形を思い付き、丸い形を付けたたり細長い粘土を積んだりして、形や表し方を考えている。(発)
- ・自然に友達の活動を見ながら、造形的な面白さを感じ取ったり、互いに作品を鑑賞して造形的なよさや面白さを感じ取ったりしている。(鑑)
- ・積極的に粘土の形を変えて、面白い形を見付けようとしている。(態)



### ●目標

想像を広げながら表したいことに合う表し方を考え、工夫して表す。

### ●学習の流れ

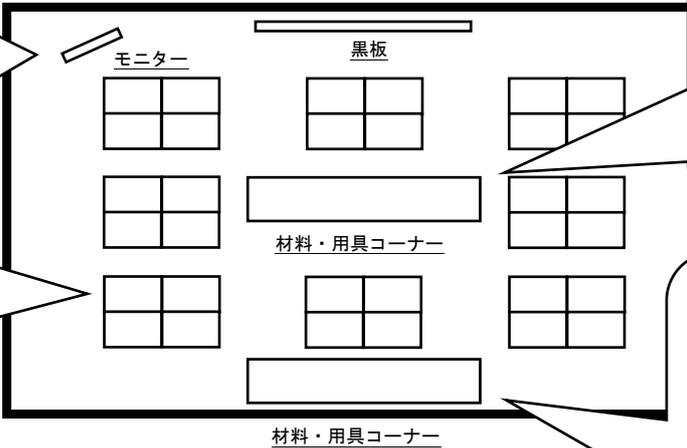
であう	詩や物語から思い浮かべたことや雰囲気話し合う。 思い浮かべたことや雰囲気に合う形や色を考える。
ひろがる あらかわす	詩や物語から想像したことを基に見つけた表したいことに合う表し方を考え、絵に表す。 友達と互いの絵を見ながら、想像したことが感じられるところを見付け伝え合う。
ふりかえる	表したことや表し方の工夫を味わいながら鑑賞する。



### ●「環境づくり」

撮影した活動の様子や作品を、モニターを通して見合うことで、さらに発想や工夫が広がる。

複数人で向き合っかく場を設定することで、児童が互いの表現を見渡して参考にできる。

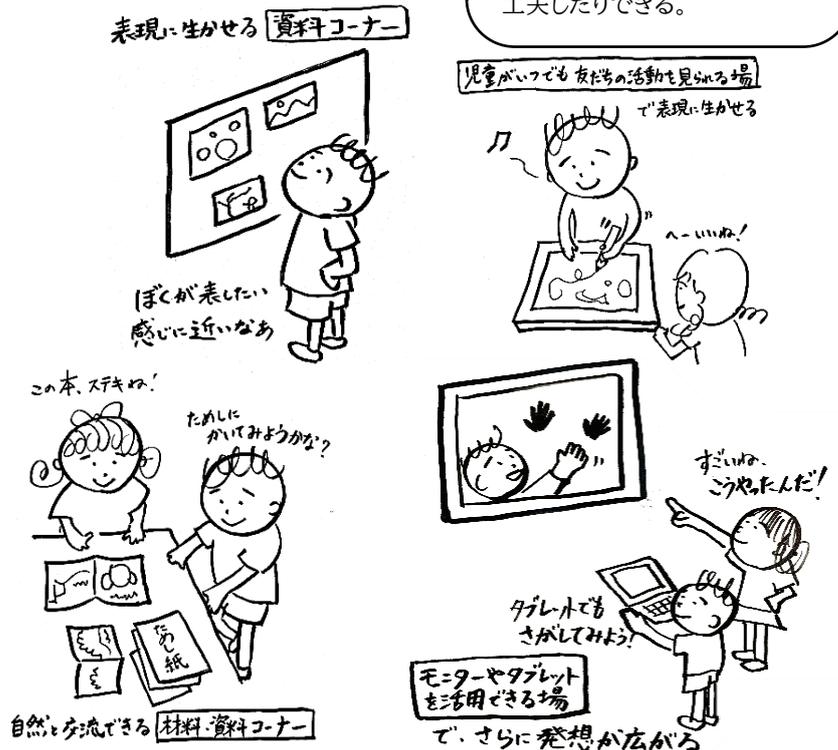


児童の視線や動きが自然と交流できるよう、試しがきのための紙置き場や、かいている途中の絵を置いて眺める場を、教室の中央や壁際に配置する。

モダンテクニックの用具や表現例を準備し、必要に応じて使えるようにしておくことで、児童の気付きを促したり、児童が表したいイメージに合わせて表現を工夫したりできる。

### ●目指す児童の姿

- ・表したい感じを、色の明るさを変えたり、色の感じを生かしたりして表現している。(知)
- ・いろいろな模様を生かして、人物や背景を工夫して表したり、水彩絵の具の水の加減や色の混ぜ方を変えて、表したい透明感のある画面になるよう工夫したりしている。(技)
- ・画面の中に表したもののつながりや対比を考えている。(発)
- ・作品の造形的なよさや面白さに気付いたり、月から見えるものを想像することを味わったりしている。(鑑)
- ・どのような配置にするかを考えたり、自分の思い浮かべたイメージに合う表し方を試したりしている。(態)



●目標

試しながらのこぎりの適切な扱い方を身に付け、木を組み合わせながら表したいことを見付ける。

●学習の流れ

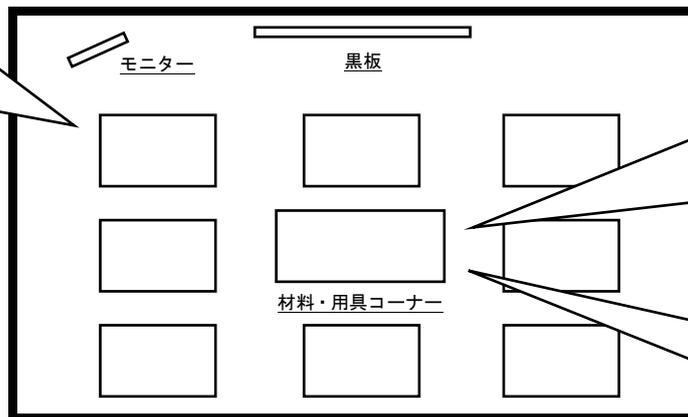
である	のこぎりの安全な扱い方を知る。
ひろがる あらわす	のこぎりで木を切る。
	切った木を組み合わせたり、つないだりしながら、つくりたいものを考える。
ふりかえる	釘や接着剤を用いてつないだり、着色したりして、つくりたいものを工夫してつくる。
	友達作品を見たり、家でどのように使うかを聞いたりすることで、そのよさや面白さを感じる。



●「環境づくり」

机の上に用具や材料を置いて、互いに向き合ったり、壁側に向かうようにしたりして、安全に活動できるようにする。

のこぎりを扱うため、児童同士の間隔を確保できる教室より広い図工室などの活動場所を設定する。



板材や角材などの材料や、のこぎりなどの用具は、児童が選んで活用しやすい場所に、材料・用具コーナーを設置する。

児童が何度も試すことができるように、豊富に木材を準備しておく。

●目指す児童の姿

- ・形を組み合わせながら、形の感じや組合せによる感じを捉えたり、つなげた形の組み合わせによる感じや枝の色の感じを生かして表したいことを表したりしている。(知)
- ・のこぎりやクランプを使って切り方を試しながら、適切な扱い方を身に付けたり、形の組み合わせ方や材料の使い方を工夫してつくりしている。(技)
- ・切った木の形を見たり、つないだり組み合わせたりしながら、発想や構想をしている。(発)
- ・鑑賞の時間に作品を見たり、よさを伝え合ったり、使う場面を発表したりしながら、作品のよさや面白さを感じ取ったり考えたりしている。(鑑)
- ・進んでつなぎ方を試しながら表したいことを考えようとしている。(態)



### ●目標

言葉から広げたイメージや思い浮かべたこと、自分の思いなどが伝わるように、工夫して絵に表す。

### ●学習の流れ

であう	物語からイメージを広げる。 心にどんなことが思い浮かんだか、友達と伝え合い、さらにイメージを広げる。
ひろがる あらわす	表したいイメージが伝わるように、工夫して絵に表す。 自分の思いに合わせて、全体の構成や表し方などを追求していく。
ふりかえる	自分や友達の作品を見て、表したかったイメージや工夫を伝え合い、よさを味わう。

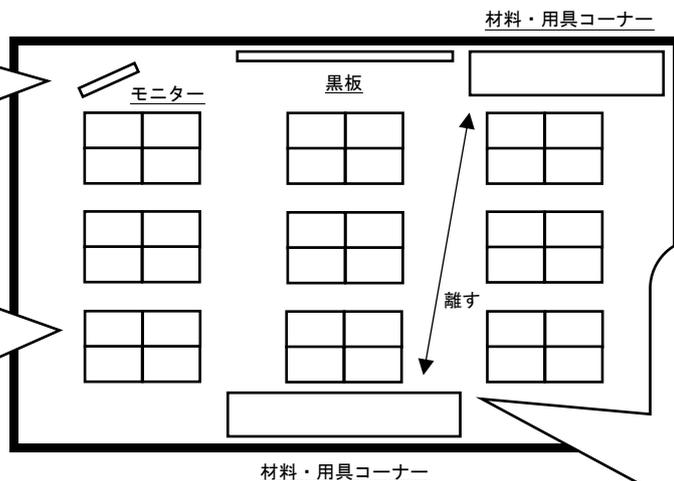
経験した描画材が使える



### ●「環境づくり」

撮影した活動の様子や作品を、モニターを通して見合うことで、さらに発想や工夫が広がる。

複数人で向き合っかか場を設定することで、児童が互いの表現を見渡して参考にできる。



試しがきのための紙置き場や、かいている途中の絵を置いて眺める場を、壁際に離して配置することで、児童の視線や動きが自然と交流できる。

モダンテクニックの用具や表現例を準備し、必要に応じて使えるようにしておくことで、児童の気付きを促したり、児童が表したいイメージに合わせて表現を工夫したりできる。

### ●目指す児童の姿

- 言葉から感じ取った情景や、それに合った形や色を表そうとしている。(知)
- イメージした色になるように、混色を工夫したり、イメージした感じが出るようにパステルで表そうとしたりしている。(技)
- 心が動いた言葉からどのようなことを表したいか、どのような表し方をしたいかについて交流するなどして、イメージに合った表し方を考えられるようにする。(発)
- 同じ物語でも感じ方や表し方が違うことを、活動途中で話したり、完成作品の鑑賞会で交流したりして、自分の見方や感じ方を深めている。(鑑)
- いすから立ち上がったたり、遠くから作品を眺めたりして、全体のバランスを見ながら、意欲的に取り組んでいる。(態)

表現に生かせる 資料コーナー



児童がいつでも友達の活動を見れる場で表現に生かせる



自然に交流できる 材料・資料コーナー

●目標

言葉から広げたイメージや思い浮かべたこと、自分の思いなどが伝わるように、工夫して絵に表す。

●学習の流れ

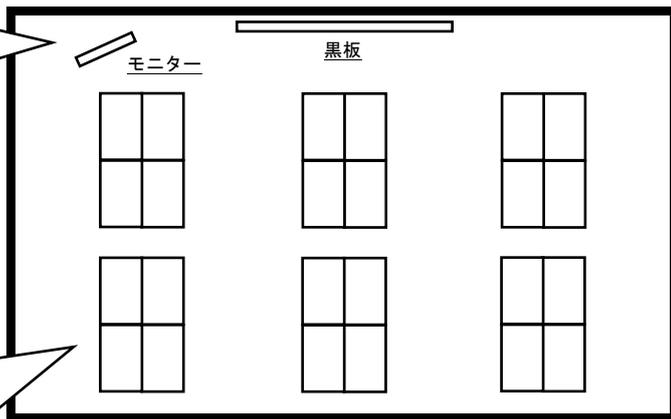
であう	心に留まる写真を選び、「まだ見ぬ世界」を想像しながら、表したいことを考える。
ひろがる あらわす	心に留まった写真から、「まだ見ぬ世界」の形や色、様子などを想像してかいていく。
	自分の表したいことが伝わるように、表し方を工夫してかく。 作品にタイトルを付ける。
ふりかえる	自分たちの作品を鑑賞し、互いのよさや表し方の違いを感じ取る。



●「環境づくり」

撮影した活動の様子や作品を、モニターを通して見合うことで、さらに発想や表現の工夫が広がる。

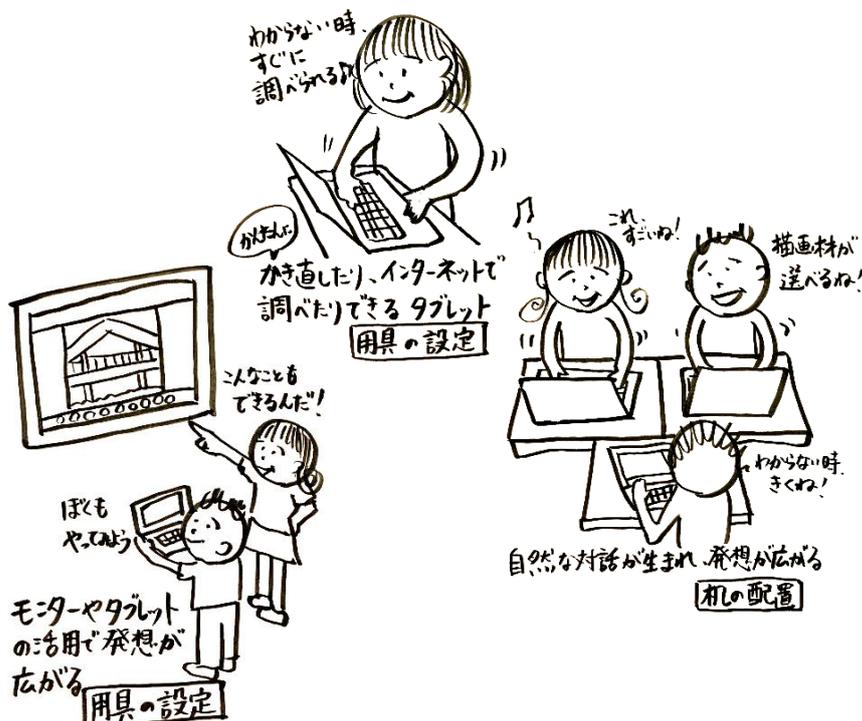
複数人で向き合って製作することで、児童が互いの表現を見渡して参考にしたり、タブレット端末の操作方法を教え合ったりすることができる。



ICT 端末と描画ソフトの活用により、画面上の写真に、レイヤーを活用しながら、容易に描いたり消したりすることができる。また、知りたい情報を必要な時にインターネットで集めることができる。

●目指す児童の姿

- ・手前にかいたり、外にかいたりするなど奥行きを理解したり、形のもつ方向感や色の鮮やかさを理解したりして表現している。(知)
- ・ICT 端末の描画材を選択したり、レイヤーで色を重ねたりすることで、表し方を工夫している。(技)
- ・画面から飛び出しているように表すことを考えるなどして、主題を強調させるなどの工夫をする。(発)
- ・写真を手に取ってじっくり見たり、友達と話をしたりしてよさを感じ取っている。(鑑)
- ・写真を凝視し、自分の想像の世界を新たに作りだすのだという強い意志をもっている。(態)



### ●目標

言葉から思い浮かんだイメージを基に、自分なりの表し方を考え、工夫して絵に表す。

### ●学習の流れ

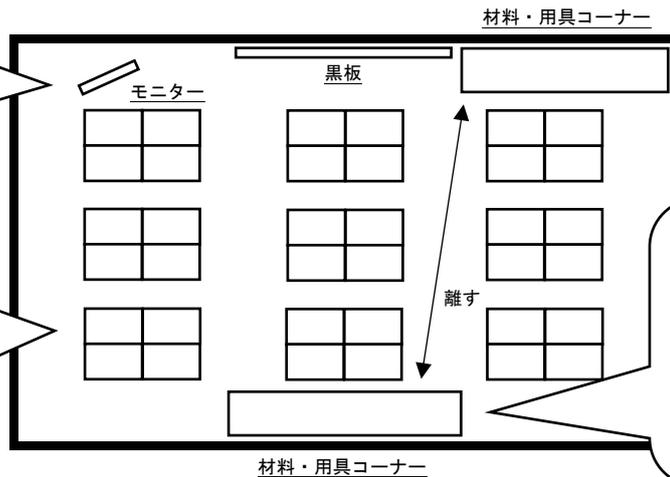
であう	物語からイメージを広げる。 言葉を味わい、感じたことや思い浮かんだことをアイデアスケッチにする。
ひろがる あらわす	表したいイメージが伝わるように、表し方を工夫して絵に表す。 自分の思いに合わせて、全体の構成や表し方などを追求していく。
ふりかえる	自分や友達の作品を見て、表したかったイメージや工夫を伝え合い、よさを味わう。



### ●「環境づくり」

撮影した活動の様子や作品を、モニターやタブレット端末を通して見合うことで、さらに発想や工夫が広がる

複数人で向き合っかか場を設定することで、児童が互いの表現を見渡して参考にできる。

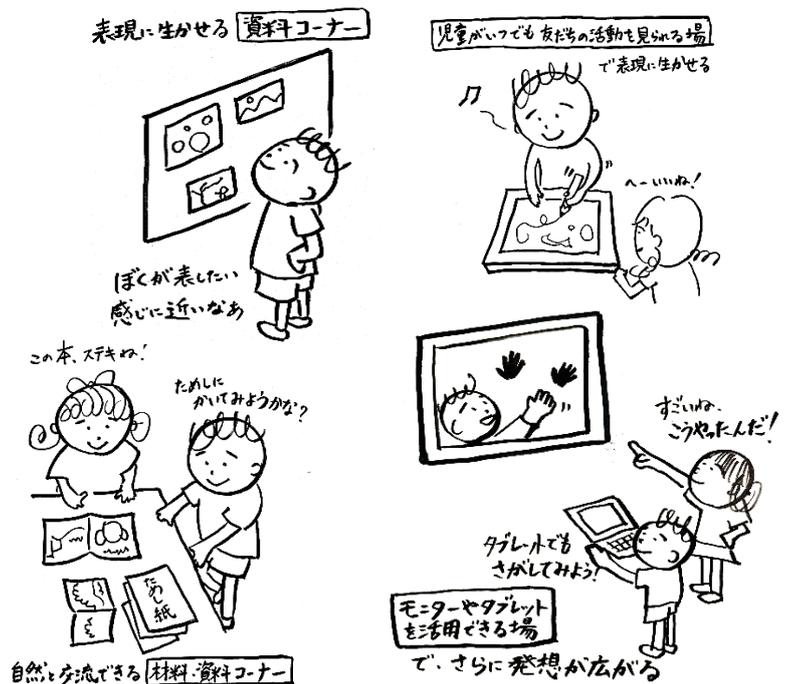


試しがきのための紙置き場や、かいている途中の絵を置いて眺める場を、壁際に離して配置することで、児童の視線や動きが自然と交流できる。

モダンテクニックの用具や表現例を準備し、必要に応じて使えるようにしておくことで、児童の気付きを促したり、児童が表したいイメージに合わせて表現を工夫したりできる。

### ●目指す児童の姿

- ・動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解して、表現している。(知)
- ・パスを指でこすって工夫して表現したり、イメージに合わせて描画材を選んだりしている。(技)
- ・あたり前に助け合うあたたかい姿を表現しようと、一番後ろを飛んでいた子供のツルの目に、助けてくれた仲間たちが映るように表現するなど、表し方を考えている。(発)
- ・鑑賞の時間に友達の表現のよさや工夫に気付いたり、同じ言葉からでも感じ方や表し方が違うことを捉えたりして、自分の見方や感じ方を深めている。(鑑)
- ・自分のイメージに合わせて主体的に表そうとしている。(態)



●目標

光り具合を試しながら、形や色を工夫してランプシェードをつくる。

●学習の流れ

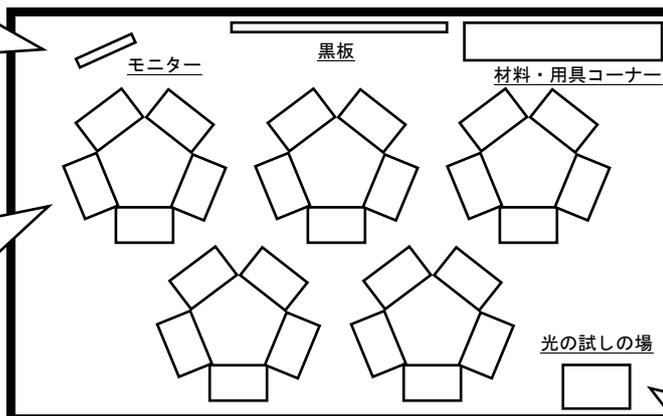
である	教科書に載っている作例や実物などを見て、ランプシェードの用途を理解し、美しさや面白さを感じる。
	材料に LED ライトをかざし、光の透け具合を観察しながら、どのようなランプシェードをつくるか考える。
ひろがる あらかわす	光り具合を想像しながら、プラスチック段ボールの形を変えたり材料を貼って飾りを付けたりしてランプシェードをつくる。
	明かりをつけたときの光り具合を確かめ、自分の考えた明かりのイメージに合うように工夫してつくり直す。
ふりかえる	ランプシェードを暗い場所に運び、光らせてみんなで鑑賞する。



●「環境づくり」

撮影した活動の様子や作品を、モニターを通して見合うことで、さらに発想や表現の工夫が広がる。

複数人で向き合っている場を設定することで、児童が互いの活動や表現を参考にし、自分の表現の工夫を広げることができる。



プラスチック段ボール、色セロハン、お花紙、黒い画用紙など、光の色や形の表現に使える材料を適当な大きさにカットして、使いやすいように整理しておくことで、児童が表したいことに合わせて選ぶことができる。

光り具合を試す場所を用意しておくことで、実際に使用した時の見え方を確認しながら製作することができる。

●目指す児童の姿

- ・色セロハンを重ねてできる造形的な特徴を理解したり、明るい部分と暗い部分のバランスを捉えたりしている。(知)
- ・プラスチック段ボールに色セロハンを貼ったり、カッターナイフで穴を開けたりして材料や用具を活用してつくっている。(技)
- ・光を透かすだけでなく影の部分にも着目し、黒い画用紙で形をつくり影絵を使って独自の雰囲気をつくりだしたり、切った材料を使って自分なりのランプシェードの形を思い付いたりしている。(発)
- ・ランプシェードの上からもれて映った光の形や色に面白さを感じている。みんなで作ったランプシェードを並べて展示し、光が集まってできる美しさを味わっている。(鑑)
- ・自分たちの作品を学校、家庭、地域の人たちに見てもらい、学習して身に付けたことが生活や社会を豊かにすることを実感している。(態)

